



「深水無落水栽培」による玄米外観品質向上効果を明らかにしました

開発の背景・ニーズ

近年、夏季の異常高温による玄米外観品質の低下が問題視されています。そこで、新たな生産資材を導入することなく、省力的に外観品質の低下を防ぐ栽培方法の開発が望まれていました。

成果の内容

愛知県が開発した省力的な栽培法である「不耕起V溝直播栽培」と湛水深を深くする「深水管理(水深15~20cm)」を組み合わせた「深水無落水栽培」が、白未熟粒などの発生を防ぎ玄米外観品質の低下を軽減させることを明らかにしました。深水管理する期間は、入水直後から成熟期が望ましいですが、分けつ盛期から出穂期でも外観品質の向上は期待できます。なお、水管理以外の管理法は、通常の不耕起V溝直播栽培と同じです。

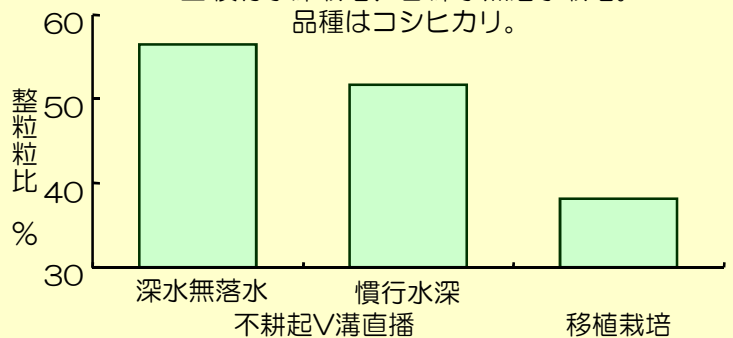


深水無落水栽培の状況(成熟期)
水深は20cm。品種はコシヒカリ。



成熟期の状況

左:慣行水深栽培、右:深水無落水栽培。
品種はコシヒカリ。



栽培法が玄米外観品質に与える影響
農業総合試験場(長久手市)での結果。品種はコシヒカリ。

愛知県農業への貢献

玄米外観品質を向上させることで、本県産米評価の向上が期待できます。また、販売価格も向上し、生産者の経営安定に貢献できます。雑草発生の抑制や減肥栽培の可能性もあり、環境保全面でも期待できます。

作物研究部